

目次

CVS

市場概況（2026年5月～7月）	P1
------------------------	----

外食

市場概況（2026年5月～7月）	P2
------------------------	----

SM・惣菜

市場概況（2026年5月～7月）	P3
------------------------	----

CVS市場データ

【業態動向】

2026年5月

GWや好天による行楽需要や、気温の上昇が要因となり、冷し麺、カウンター商材、デザート、ソフトドリンク、アイスクリーム、デオドラント用品が好調に推移し、全店・既存店ともに売上高が前年を上回る結果となった。

2026年6月

梅雨前線や台風による天候不良等が来店客数に影響を及ぼしたものの、セット割引・クーポン配布をはじめとする販促施策等により、弁当、揚げ物、デザート、玩具が好調に推移したことから、全店売上高が前年を上回る結果となった。

2026年7月

フェア・クーポン配布をはじめとする販促施策等により、揚げ物、デザート、菓子、日用品、玩具が好調に推移したことから、全店・既存店ともに売上高が前年を上回る結果となった。

「日本フランチャイズチェーン協会」が各月で発表している動向を編集したものです。

【実績前年増減比】

	2026年5月		2026年6月		2026年7月	
	全店	既存店	全店	既存店	全店	既存店
売上高	1.2%	0.7%	0.3%	▲0.1%	1.1%	0.7%
店舗数	0.5%	—	0.5%	—	0.5%	—
客数	0.1%	▲0.1%	▲2.8%	▲3.4%	▲1.1%	▲1.5%
客単価	1.1%	0.8%	3.2%	3.4%	2.2%	2.3%

【商品構成比および前年増減比(既存店売上高ベース)】

	2026年5月		2026年6月		2026年7月	
	構成比	前年増減比	構成比	前年増減比	構成比	前年増減比
日配食品	35.6%	1.6%	35.8%	0.3%	35.4%	▲0.2%
加工食品	28.0%	3.8%	26.9%	▲5.0%	28.5%	▲1.4%
非食品	32.2%	1.3%	32.0%	2.1%	31.3%	3.2%
サービス	4.2%	▲23.7%	5.3%	11.6%	4.8%	4.8%

※本調査の対象……JFA正会員コンビニエンスストア本部 7社、(株)セイコーマート、(株)セブン-イレブン・ジャパン、(株)ファミリーマート、(株)ポプラ、ミニストップ(株)、山崎製パン(株)デイリーヤマザキ事業統括本部、(株)ローソン 出典：日本フランチャイズチェーン協会

外食市場データ

【業態動向】

2026年5月

大型連休の行楽需要が好調だったことや、土日数が2日多い曜日回りが底上げし、外食全体の売上は前年比109.8%となった。中旬を中心に比較的天候に恵まれたことや、各社とも各種施策で集客に努めていることもあり、連休明けの集客の落ち込みは概ね例年並みで推移した。

2026年6月

度重なる台風の接近と土日が少ない曜日回りもあり、客数は失速、客単価上昇と店舗増に支えられ、外食全体の売上は103.3%となった。空梅雨傾向だった前年と比較して、天候に恵まれず気温も上昇しなかったこともあり、台風以外の日も雨天日を中心にFRや飲酒業態で客足は伸び悩んだ。他方、FFなどの普段使いの店は、比較的堅調に推移した。

2026年7月

台風の影響を受けた前月から一転、比較的天候が安定し、全体的に客数は回復した。西日本を中心に酷暑日があったものの、記録的な猛暑だった前年と比べ極端な高温が和らいだことも客足にプラスとなったか、外食全体の売上は106.8%となった。コラボキャンペーンなどで集客を図る一方、お得感など消費者の値頃感への訴求の有無が客足を左右する場面もみられ、引き続き難しい舵取りを迫られている。

「日本フードサービス協会」が各月で発表している動向を編集したものです。

【実績前年増減比(全店)】

	2026年5月				2026年6月				2026年7月			
	売上高	店舗数	客数	客単価	売上高	店舗数	客数	客単価	売上高	店舗数	客数	客単価
全体	9.8%	1.5%	6.1%	3.5%	3.3%	1.5%	0.8%	2.4%	6.8%	1.1%	3.2%	3.5%
ファストフード	9.8%	2.5%	6.1%	3.4%	5.1%	2.5%	2.2%	2.8%	7.5%	1.9%	3.9%	3.4%
ファミリーレストラン	10.4%	▲0.1%	6.9%	3.3%	0.5%	▲0.3%	▲1.8%	2.3%	5.7%	▲0.3%	2.0%	3.6%
パブ／居酒屋	5.3%	0.1%	4.0%	1.3%	0.5%	▲0.3%	▲1.8%	2.3%	5.2%	▲0.5%	3.7%	1.5%
ディナーレストラン	10.6%	1.8%	8.0%	2.4%	0.5%	▲0.3%	▲1.8%	2.3%	9.5%	1.8%	5.4%	3.9%
喫茶	9.3%	1.1%	3.5%	5.6%	0.6%	1.4%	▲2.3%	3.0%	4.4%	0.8%	1.0%	3.4%

※業態別で「その他」は省いています。 出典：日本フードサービス協会

SM・惣菜市場データ

【業態動向】

2026年5月

GWや母の日、行楽需要を取り込み、堅調に推移した。寿司類、弁当・丼物などの米飯類が売上を牽引し、から揚げ、フライ、焼物などの温惣菜も好調。値頃感や即食性の高い商品が支持された。気温上昇で麺類などの涼味食材も動いた。一方、天ぷらや和惣菜は好不調が分かれ、サラダもやや鈍化。包装資材や原材料の価格上昇で、利益確保に苦慮する声もみられた。

2026年6月

前年より気温が低く、温惣菜を中心に堅調に推移したが、商品群で好不調が分かれた。フライ、天ぷら、から揚げ、焼き物は比較的好調。米飯類は弁当や丼物が伸びた一方、米や原材料価格の高止まりで店舗差がみられた。寿司類は父の日需要で伸長した店舗もあったが、全体では伸び悩んだ。麺類やサラダ、和・洋惣菜も天候などにより明暗が分かれた。

2026年7月

家庭内調理を避ける需要や夏休み需要、販促効果により、弁当・丼物などの米飯類、から揚げ、天ぷら、焼物が堅調に推移した。土用の丑関連では、うなぎ米飯や寿司類が動き、値頃感のある商品が売上を下支え。一方、寿司、揚げ物、冷惣菜、麺類は天候や販促状況で好不調が分かれた。ベーカリーや惣菜パンを強化した店舗は好調。原材料や包材価格の上昇で利益確保には課題が残った。

「全国スーパーマーケット協会」が毎月で発表している動向を編集したものです。

【実績前年増減比(全店)】

	2026年5月			2026年6月			2026年7月		
	構成比	売上高前年比 (全店)	売上高前年比 (既存店)	構成比	売上高前年比 (全店)	売上高前年比 (既存店)	構成比	売上高前年比 (全店)	売上高前年比 (既存店)
総売上	—	4.4%	3.1%	—	0.9%	▲0.2%	—	1.1%	0.0%
食品合計	92.1%	4.2%	2.9%	91.9%	1.2%	0.0%	92.0%	1.3%	0.1%
生鮮3部門合計	33.8%	5.8%	4.3%	33.6%	4.0%	2.7%	33.3%	4.0%	2.6%
惣菜	11.6%	6.1%	4.6%	11.3%	2.9%	1.6%	11.8%	3.1%	1.8%
日配	20.5%	4.1%	2.7%	20.6%	0.9%	▲0.4%	21.0%	1.1%	▲0.2%
一般食品	26.3%	1.7%	0.7%	26.4%	▲2.4%	▲3.5%	25.9%	▲2.5%	▲3.5%
非食品	5.7%	7.4%	6.5%	5.8%	▲3.5%	▲3.2%	5.7%	▲0.3%	▲1.4%

※本調査の対象……食品を中心に扱うスーパーマーケット270社 ※構成比、売上高前年比は「その他」を省いています。 出典：スーパーマーケット統計調査（全国スーパーマーケット協会）